

・2026年度第1四半期決算の実績、および2026年度の通期業績予想の修正について説明します。

サマリー

清水建設

2027年3月期第1四半期　実績

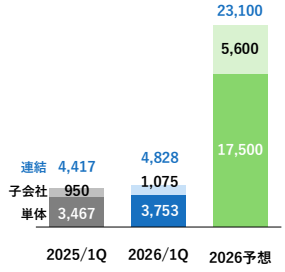
- 売上高は、国内建築・土木工事の施工が順調に進捗したことなどにより410億円の増収。
- 営業利益は、開発事業等総利益が減少したものの、国内建築・土木工事の採算改善などにより20億円の増益。
- 持分法による投資利益に、清和綜合建物の持分法適用関連会社化に伴う負ののれん相当額355億円を計上。
- 当期純利益は、政策保有株式の売却益117億円を計上したことなどから441億円の増益。

2027年3月期　通期予想（今回修正）

- 負ののれん相当額の計上に伴い、経常利益と当期純利益の通期予想を355億円上方修正。
- 売上高は、国内建築の大型工事の施工が最盛期を迎えることや、M&Aで取得したあおみ建設の業績が反映されることなどにより2,521億円の増収。
- 営業利益は、国内建築工事において、追加変更工事の獲得などによる手持工事の採算改善を織り込み、343億円の増益。
- 当期純利益は、政策保有株式の売却益は減少するものの、負ののれん相当額の計上などにより388億円の増益。
- 年間配当金は、前期比5円増配の77円。

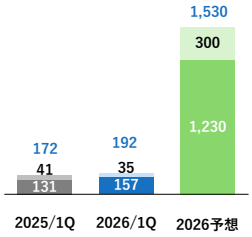
売上高

（単位：億円）



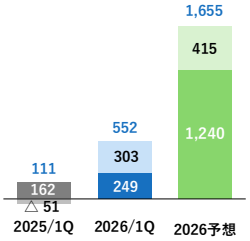
営業利益

（単位：億円）



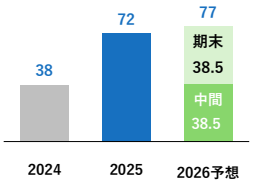
当期純利益

（単位：億円）



配当金（1株当たり）

（単位：円）



(C)Copyright SHIMIZU CORPORATION. All rights reserved.

目次

1. 事業環境 P03

2. 2026年度第１四半期業績 P04

3. 2026年度業績予想の修正 P07

4. 事業別の概況 P11

5. 財政状態及び株主還元 P18

(C)Copyright SHIMIZU CORPORATION. All rights reserved.

1 事業環境

事業環境認識（建設事業）

SHIMIZU CORPORATION 清水建設

国内

●民間建築投資については、大都市圏における大規模再開発が継続することもあり、堅調に推移することが見込まれます。

●また、良好な企業業績により、設備投資や省エネ対策等に伴う建築補修の需要は高水準で推移することが予想されます。
工場は幅広い業種で新増設があり、特に半導体、自動車、産業用ロボット、医薬品、食品などの分野が旺盛です。

●通信量増大と生成AI需要拡大を受けた、大規模なデータセンターへの投資が首都圏、関西圏において活発です。
ホテルについても、インバウンド需要により、特にラグジュアリーホテルの投資が好調です。

●政府の建設投資については、治水やインフラ老朽化対策、庁舎の建替えなどで底堅く、今後は防衛・防災関連施設も見込まれます。
また、大地震や豪雨などの災害リスクに向けた、防災・減災対策など、国土強靭化計画の実施も予定されています。

●国内では堅調な投資活動が続いている一方、中東情勢をはじめとする海外の不確実性が常態化しており、今後はこれらに加え、
金利の上昇を踏まえた民間設備投資の動向など、建設業に与える影響に注視する必要があります。

●建設業界においては、大型工事の多数出件と人手不足によって設備サブコンは過去に例をみない超繁忙状態にあり、
案件の見直しや受注辞退の動きがでているため、これらの影響についても細心の注意を払う必要があります。

海外

●データセンターや半導体関連等、成長分野におけるプロジェクトを中心に、活発な出件がみられます。

●地域別では、東南アジア各国およびインドでは、総じて堅調な事業環境が続いており、また、北米でも企業の投資活動が底堅く
推移しております。

●ODAを含むインフラ投資については、ターゲットとしている新興国を中心に、底堅い需要が見込まれます。

(C)Copyright SHIMIZU CORPORATION. All rights reserved.

2 2026年度第１四半期業績

2026年度第１四半期業績（連結・単体）

清水建設

（単位：億円）

	連結				単体			子会社		
	2025/1Q 実績	2026/1Q 実績	増減	進捗率	2025/1Q 実績	2026/1Q 実績	増減	2025/1Q 実績	2026/1Q 実績	増減
売上高	4,417	**4,828**	410	20.9%	3,467	**3,753**	285	950	**1,075**	125
完成工事高	3,913	**4,388**	475	21.3	3,229	**3,593**	363	684	**795**	112
開発事業等売上高	504	**439**	△65	17.9	237	**159**	△78	267	**280**	13
売上総利益	10.8% 475	**11.0% 532**	57	17.5	9.8% 338	**10.2% 384**	46	137	**148**	11
完成工事総利益	9.2% 360	**10.8% 474**	113	17.6	8.1% 263	**10.3% 370**	107	97	**104**	6
開発事業等総利益	22.7% 114	**13.3% 58**	△56	16.7	31.6% 75	**8.7% 13**	△61	39	**45**	5
販管費	302	**339**	36	22.4	206	**227**	20	96	**112**	16
営業利益	3.9% 172	**4.0% 192**	20	12.6	3.8% 131	**4.2% 157**	25	41	**35**	△5
経常利益	4.2% 184	**11.5% 556**	371	30.3	6.2% 214	**6.2% 234**	19	△30	**322**	352
親会社株主に帰属する当期純利益	2.5% 111	**11.4% 552**	441	33.4	4.7% 162	**6.6% 249**	86	△51	**303**	355
（参考）1株当たり当期純利益（円）	16.33	81.36			23.91	36.70				
建設事業受注高	6,998	**5,163**	△1,835	27.0	6,017	**3,829**	△2,188	981	**1,334**	353

※進捗率は、今回修正した通期予想に対する進捗率を表示しております。
※子会社欄の数値は、連結決算から単体決算を差し引いて表示しております。

(C)Copyright SHIMIZU CORPORATION. All rights reserved.

・まず、2026年度第1四半期決算の実績について説明します。

・連結業績について、当期の売上高合計は4,828億円で、前年同期に比べ410億円の増加となりました。

・売上総利益は532億円で、開発事業等総利益が減少したものの、完成工事総利益が増加したことから、前年同期に比べ57億円の増加となりました。

・営業利益は192億円で、前年同期に比べ20億円の増益。

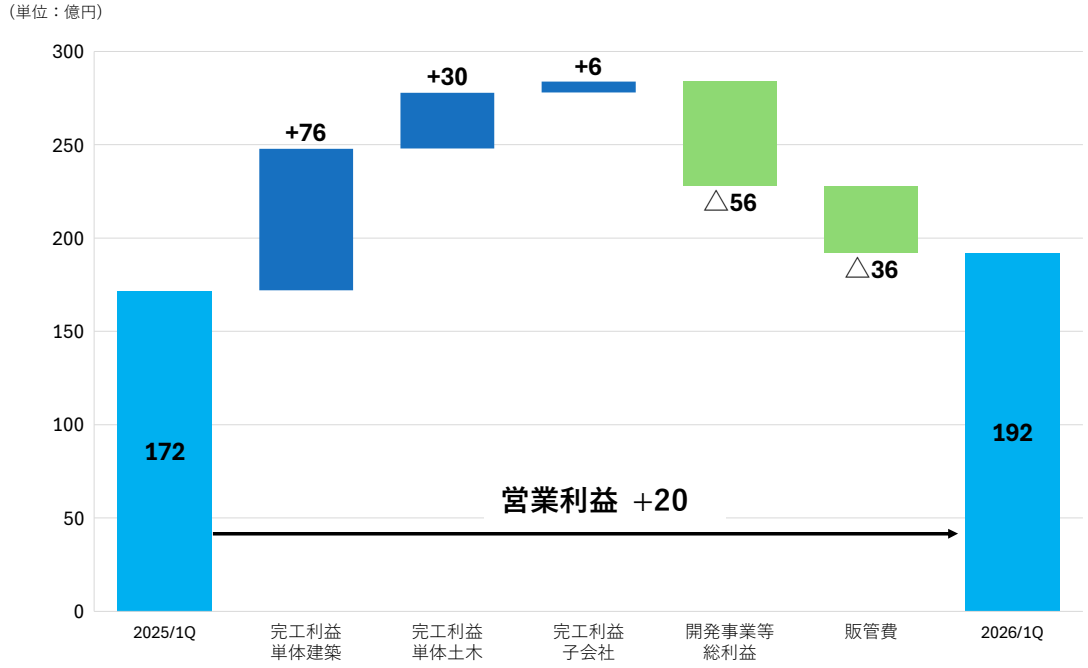
・持分法による投資利益に、2026年6月30日付で清和綜合建物を持分法適用関連会社としたことに伴う負ののれん相当額355億円を計上した結果、経常利益は556億円、当期純利益は552億円で、いずれも前年同期に比べ、大幅な増益となりました。

・建設事業受注高は5,163億円で、大型再開発工事の受注が複数あった前年同期に比べ1,835億円の減少となりました。

2 2026年度第１四半期業績

増減分析－営業利益（連結）－前年同期比

清水建設



(C)Copyright SHIMIZU CORPORATION. All rights reserved.

・第1四半期の営業利益について、前年同期比での増減要因を説明します。

・単体の工事利益は、建築・土木ともに工事採算の改善に加え、完成工事高が増加したことから、前年同期に比べ建築は76億円、土木は30億円それぞれ増加しました。

・子会社の工事利益は、新たにM＆Aにより子会社となったあおみ建設の業績が反映されたことなどから、前年同期に比べ6億円増加しました。

・開発事業等総利益は、当社において、前年同期に開発物件の売却があった反動などから、56億円減少しました。

・販管費は36億円の増加で、当社において20億円増加したことに加え、 あおみ建設の子会社化などにより、子会社が16億円の増加となりました。

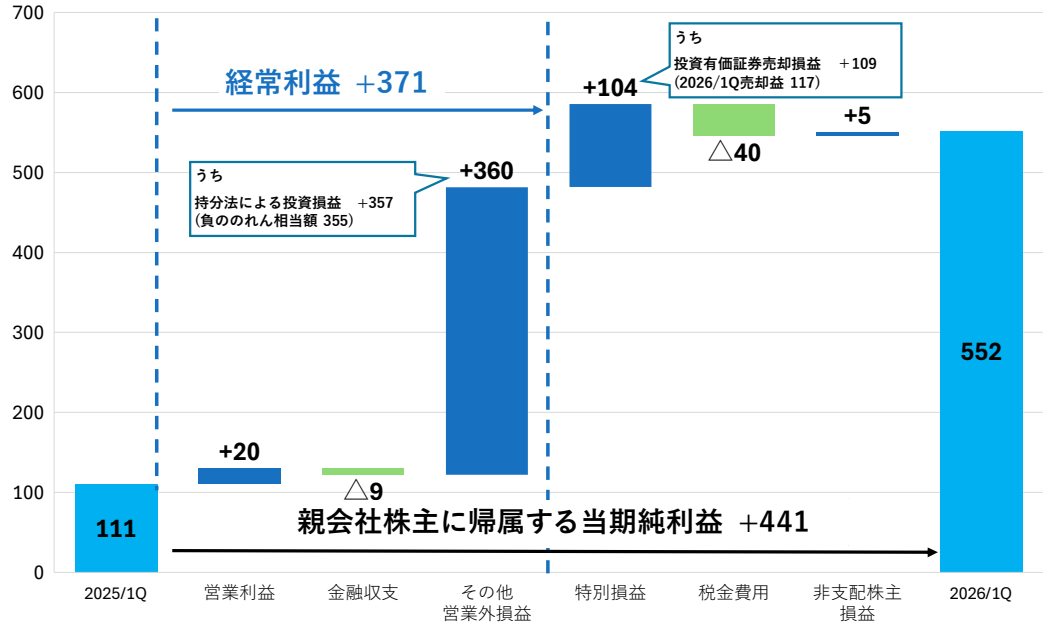
・この結果、営業利益は、前年同期に比べ20億円増加し、192億円となりました。

2 2026年度第１四半期業績

増減分析－親会社株主に帰属する当期純利益（連結）－前年同期比

清水建設

（単位：億円）



(C)Copyright SHIMIZU CORPORATION. All rights reserved.

・第1四半期の当期純利益について、前年同期比での増減要因を説明します。

・経常利益は、営業外収益に負ののれん相当額355億円を計上したことなどにより、371億円の増益となりました。

・特別損益のうち、投資有価証券売却益は117億円となり、前年同期に比べ109億円増加しました。

・これらの結果、当期純利益は、前年同期に比べ441億円増加し、552億円となりました。

3 2026年度業績予想の修正

2026年度業績予想（連結・単体）－前回予想比

清水建設

（単位：億円）

	連結			単体			子会社		
	2026 前回予想	2026 今回予想	増減	2026 前回予想	2026 今回予想	増減	2026 前回予想	2026 今回予想	増減
売上高	23,100	**23,100**	—	17,500	**17,500**	—	5,600	**5,600**	—
完成工事高	20,650	**20,650**	—	16,600	**16,600**	—	4,050	**4,050**	—
開発事業等売上高	2,450	**2,450**	—	900	**900**	—	1,550	**1,550**	—
売上総利益	13.2% 3,050	**13.2% 3,050**	—	12.9% 2,250	**12.9% 2,250**	—	800	**800**	—
完成工事総利益	13.1% 2,700	**13.1% 2,700**	—	12.7% 2,100	**12.7% 2,100**	—	600	**600**	—
開発事業等総利益	14.3% 350	**14.3% 350**	—	16.7% 150	**16.7% 150**	—	200	**200**	—
販管費	1,520	**1,520**	—	1,020	**1,020**	—	500	**500**	—
営業利益	6.6% 1,530	**6.6% 1,530**	—	7.0% 1,230	**7.0% 1,230**	—	300	**300**	—
経常利益	6.4% 1,480	**7.9% 1,835**	355	7.4% 1,290	**7.4% 1,290**	—	190	**545**	355
親会社株主に帰属する当期純利益	5.6% 1,300	**7.2% 1,655**	355	7.1% 1,240	**7.1% 1,240**	—	60	**415**	355
建設事業受注高	19,100	**19,100**	—	14,500	**14,500**	—	4,600	**4,600**	—

※子会社欄の数値は、連結決算から単体決算を差し引いて表示しております。

(C)Copyright SHIMIZU CORPORATION. All rights reserved.

・2026年度通期の業績予想について説明します。

・第1四半期決算において、営業外収益に負ののれん相当額355億円を計上したことから、2026年5月に公表した業績予想を上方修正しております。

・なお、負ののれん相当額の計上以外については、当社グループを取り巻く景況感は概ね想定の範囲内であり、通期の業績予想に対して順調に進捗していることから、業績予想は変更しておりません。

・また、通期の受注高予想についても、前回予想から変更しておりません。

3 2026年度業績予想の修正

2026年度業績予想（連結・単体）－前期実績比

清水建設

（単位：億円）

	連結			単体			子会社		
	2025 実績	2026 予想	増減	2025 実績	2026 予想	増減	2025 実績	2026 予想	増減
売上高	20,578	**23,100**	2,521	15,895	**17,500**	1,604	4,683	**5,600**	917
完成工事高	18,453	**20,650**	2,196	14,896	**16,600**	1,703	3,557	**4,050**	493
開発事業等売上高	2,125	**2,450**	324	999	**900**	△99	1,126	**1,550**	423
売上総利益	12.5% 2,580	**13.2% 3,050**	469	11.3% 1,795	**12.9% 2,250**	454	785	**800**	15
完成工事総利益	11.8% 2,186	**13.1% 2,700**	513	10.6% 1,575	**12.7% 2,100**	524	611	**600**	△11
開発事業等総利益	18.6% 394	**14.3% 350**	△44	21.9% 219	**16.7% 150**	△69	175	**200**	25
販管費	1,394	**1,520**	125	952	**1,020**	67	442	**500**	58
営業利益	5.8% 1,186	**6.6% 1,530**	343	5.3% 842	**7.0% 1,230**	387	344	**300**	△44
経常利益	5.9% 1,223	**7.9% 1,835**	611	6.1% 963	**7.4% 1,290**	326	260	**545**	285
親会社株主に帰属する当期純利益	6.2% 1,266	**7.2% 1,655**	388	8.4% 1,329	**7.1% 1,240**	△89	△63	**415**	477
（参考）1株当たり当期純利益（円）	186.68	243.72		196.02	182.57				
建設事業受注高	21,585	**19,100**	△2,485	18,045	**14,500**	△3,545	3,540	**4,600**	1,060

※子会社欄の数値は、連結決算から単体決算を差し引いて表示しております。

(C)Copyright SHIMIZU CORPORATION. All rights reserved.

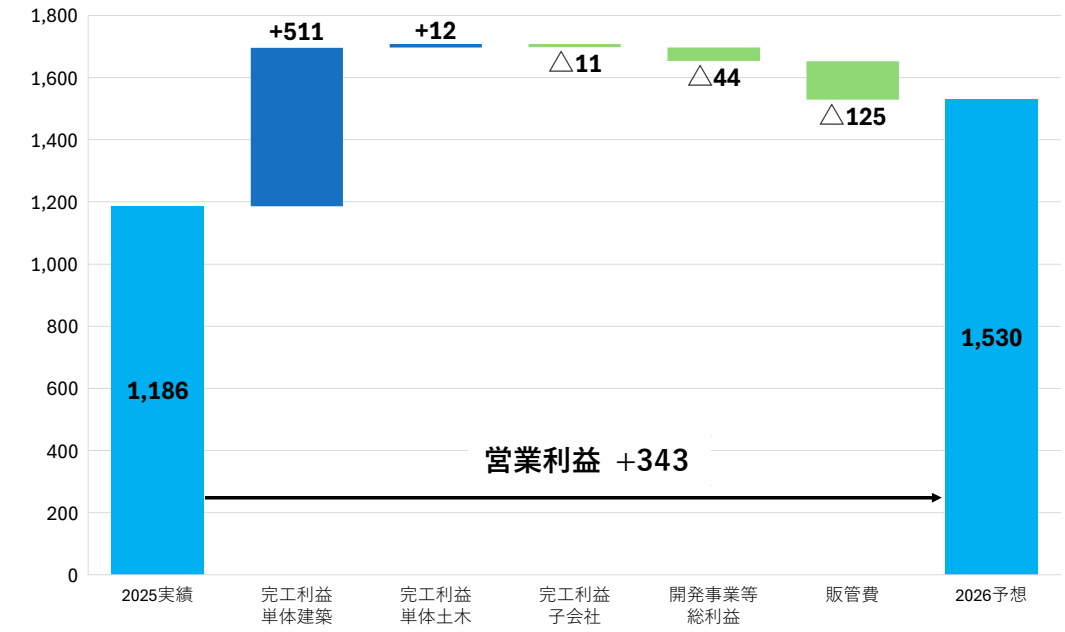
・2026年度通期の業績予想について、前期実績比で説明します。

・連結業績について、売上高は2兆3,100億円で2,521億円の増加、営業利益、経常利益、当期純利益ともに、前期に比べ大幅な増益で見込みます。

3 2026年度業績予想の修正

増減分析－営業利益（連結）－前期実績比

清水建設



(C)Copyright SHIMIZU CORPORATION. All rights reserved. 9

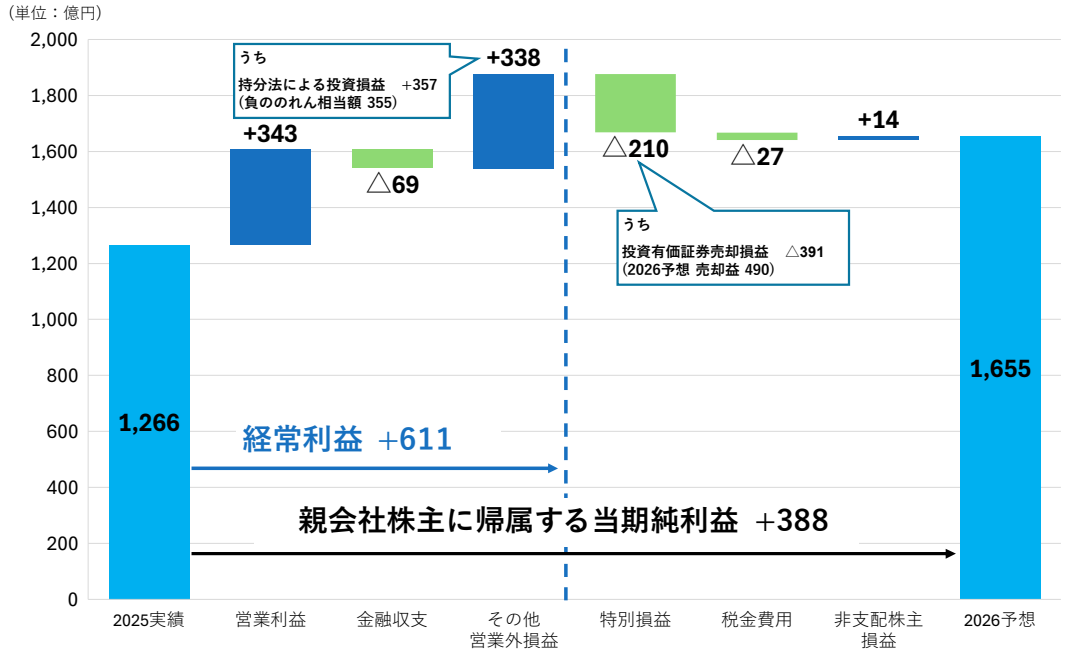
・営業利益の通期予想について、前期実績比での増減要因を説明します。

・営業利益は、開発事業等総利益が減少し、販管費が増加するものの、単体建築の完成工事総利益が大幅に増加することなどから、前期に比べ343億円の増益で見込みます。

3 2026年度業績予想の修正

増減分析－親会社株主に帰属する当期純利益（連結）－前期実績比

清水建設



(C)Copyright SHIMIZU CORPORATION. All rights reserved.

・当期純利益の通期予想について、前期実績比での増減要因を説明します。

・営業利益の増加に加え、持分法による投資利益に負ののれん相当額355億円を計上したことから、経常利益は前期に比べ611億円の増益で見込みます。

・特別損益は、投資有価証券売却益が大幅に減少することから、前期に比べ210億円の悪化で見込みます。

・この結果、当期純利益は1,655億円で、前期に比べ388億円の増益で見込みます。

4 事業別の概況

事業別の概況（単体）－実績

清水建設

（単位：億円）

			2025/1Q			2026/1Q			増減	
			売上高	利益率	売上総利益	売上高	利益率	売上総利益	売上高	売上総利益
建設事業	建築	国内	2,475	9.1%	225	2,691	10.8%	291	216	66
		海外	84	△9.9	△8	142	1.3	1	57	10
		計	2,560	8.5	216	2,833	10.4	293	273	76
	土木	国内	588	7.5	44	670	10.9	72	82	28
		海外	81	2.6	2	88	4.9	4	7	2
		計	669	6.9	46	759	10.2	77	89	30
	合計	国内	3,063	8.8	269	3,362	10.8	364	298	94
		海外	166	△3.8	△6	231	2.6	6	65	12
		計	3,229	8.1	263	3,593	10.3	370	363	107
開発事業等			237	31.6	75	159	8.7	13	△78	△61
合計			3,467	9.8	338	3,753	10.2	384	285	46

(C)Copyright SHIMIZU CORPORATION. All rights reserved.

・単体建設事業の第1四半期実績について、建築・土木別、国内・海外別に記載しています。

4 事業別の概況

事業別の概況（単体）－通期予想（前期実績比）

清水建設

（単位：億円）

			2025実績			2026予想			増減	
			売上高	利益率	売上総利益	売上高	利益率	売上総利益	売上高	売上総利益
建設事業	建築	国内	11,396	11.6%	1,316	12,700	13.9%	1,760	1,303	443
		海外	512	△5.4	△27	900	4.4	40	387	67
		計	11,908	10.8	1,288	13,600	13.2	1,800	1,691	511
	土木	国内	2,591	10.0	259	2,650	10.6	280	58	20
		海外	395	6.9	27	350	5.7	20	△45	△7
		計	2,987	9.6	287	3,000	10.0	300	12	12
	合計	国内	13,987	11.3	1,576	15,350	13.3	2,040	1,362	463
		海外	908	△0.0	△0	1,250	4.8	60	341	60
		計	14,896	10.6	1,575	16,600	12.7	2,100	1,703	524
開発事業等			999	21.9	219	900	16.7	150	△99	△69
合計			15,895	11.3	1,795	17,500	12.9	2,250	1,604	454

※2026年5月12日公表の予想を修正しておりません。

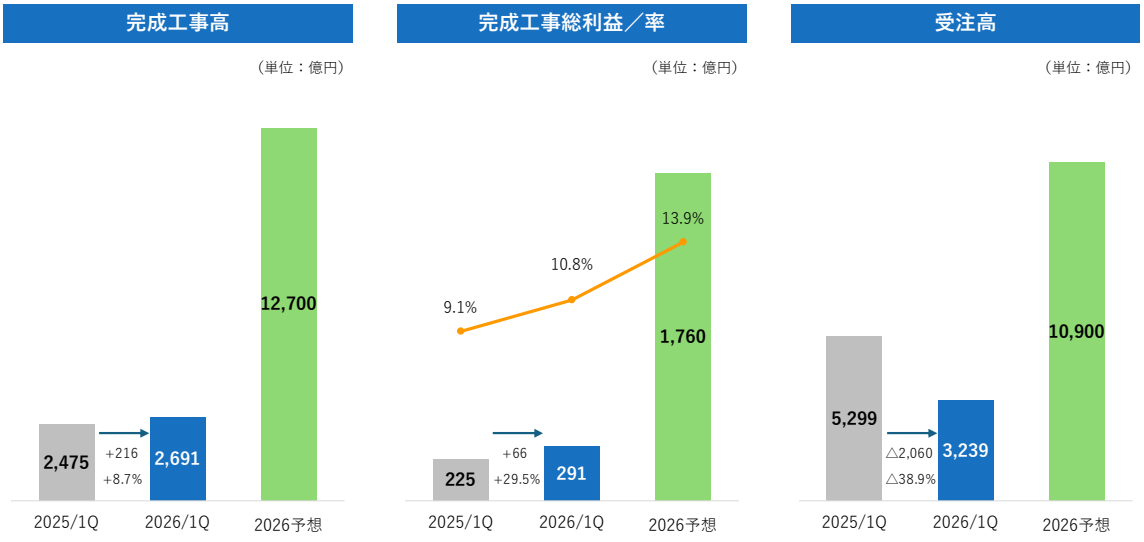
(C)Copyright SHIMIZU CORPORATION. All rights reserved.

・単体建設事業の通期予想について、建築・土木別、国内・海外別に、前期実績比で記載しています。

4 事業別の概況

国内建築事業（単体）

清水建設



(C)Copyright SHIMIZU CORPORATION. All rights reserved.

・まず、単体の国内建築事業の概況について説明します。

・第1四半期の利益率は10.8％で、手持工事の採算改善が順調に進んだことにより、前年同期に比べ1.7ポイントの改善となりました。

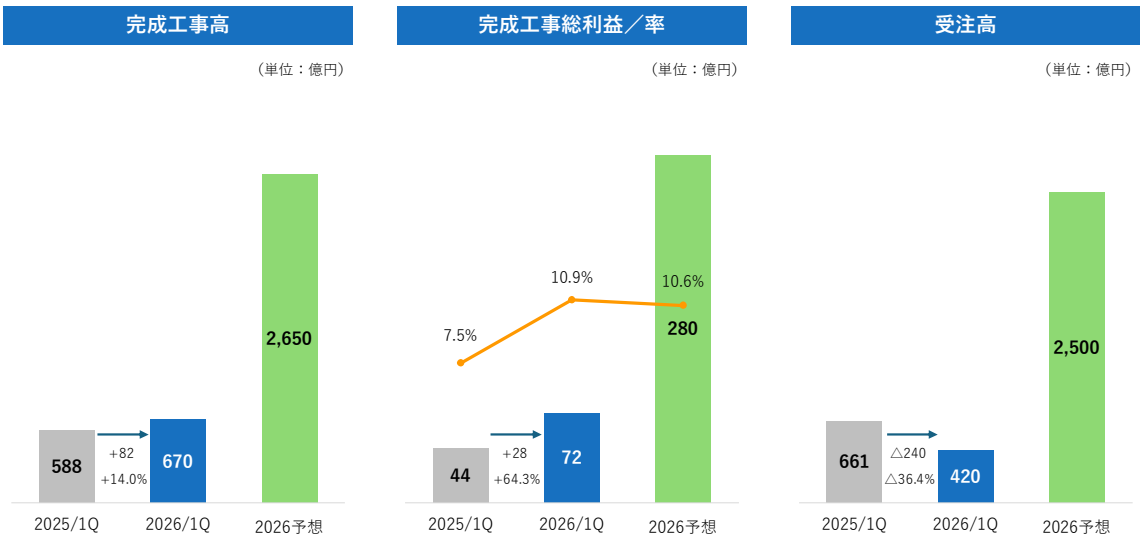
・通期の利益率の予想は13.9％で、手持工事における追加変更工事の獲得による利益改善などを織り込み、前期に比べ2.3ポイントの改善で見込みます。

・第1四半期の受注高は3,239億円で、前年同期に「内幸町一丁目」や「赤坂七丁目」といった大型再開発案件の受注があった反動により、2,060億円の減少となりましたが、通期予想に対しては順調に進捗しております。

4 事業別の概況

国内土木事業（単体）

清水建設



(C)Copyright SHIMIZU CORPORATION. All rights reserved. 14

・単体の国内土木事業の概況について説明します。

・第1四半期の利益率は10.9％で、採算の良い工事の消化が進んだことや手持工事の利益改善があったことから、前年同期に比べ3.4ポイントの改善となりました。

・通期の利益率の予想は10.6％で、前期に比べ0.6ポイントの改善で見込みます。

・第1四半期の受注高は420億円で、前年同期に比べ240億円の減少となりました。

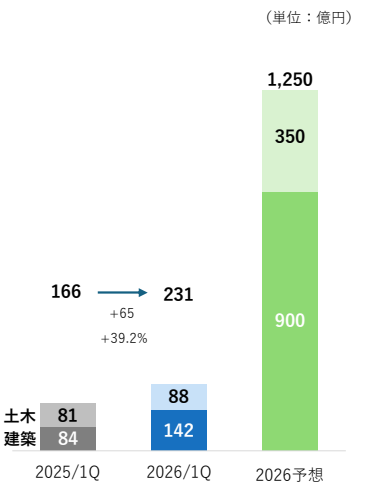
・受注高の通期予想に対する進捗率は、若干低くなっていますが、概ね想定の範囲内で進捗しています。

4 事業別の概況

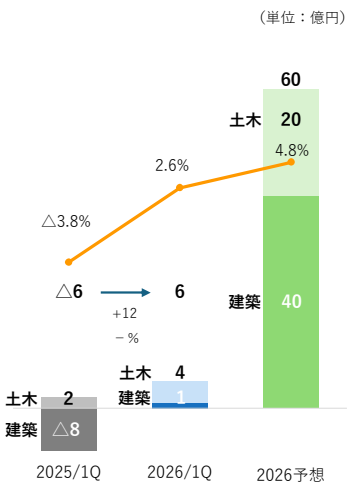
海外建設事業

清水建設

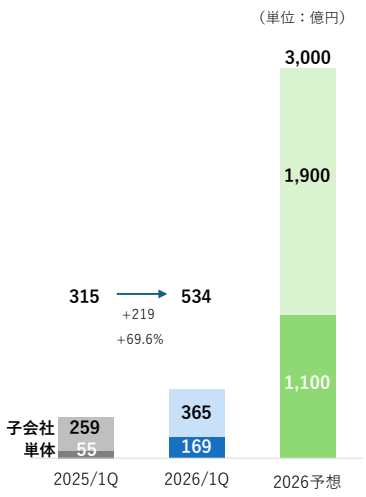
完成工事高（単体）



完成工事総利益／率（単体）



受注高（連結）



(C)Copyright SHIMIZU CORPORATION. All rights reserved.

・海外の建設事業の概況について説明します。

・第1四半期の単体の海外建築の完成工事総利益は1億円で、比較的採算の良い大型工事の消化が進んだことから、前年同期に比べ10億円の増加となりました。

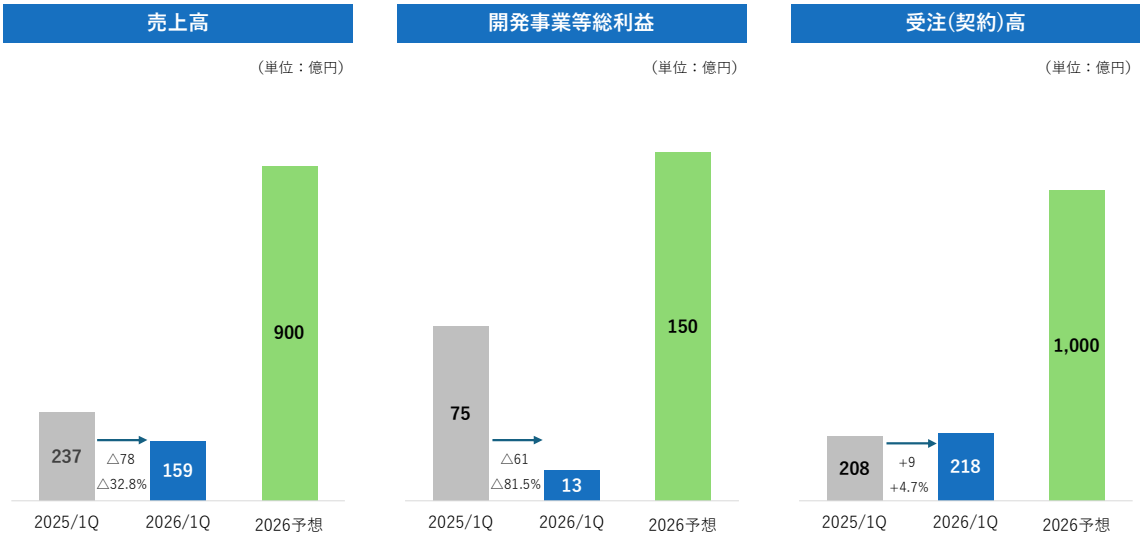
・連結ベースの第1四半期の受注高は534億円で、単体・子会社ともに比較的規模の大きい工場案件の受注があったことなどから、前年同期に比べ219億円の増加となりました。

・受注高の通期予想に対する進捗率は、若干低くなっていますが、概ね想定の範囲内で進捗しています。

4 事業別の概況

開発事業等（単体）

清水建設



(C)Copyright SHIMIZU CORPORATION. All rights reserved.

・単体の開発事業等の概況について説明します。

・第1四半期の開発事業等総利益は13億円で、前年同期に開発物件を売却した反動などから、61億円の減少となりました。
通期予想の150億円に対しては、概ね想定どおりに進捗しております。

4 事業別の概況

事業別の概況（単体受注高）－通期予想（前期実績比）

清水建設

（単位：億円）

			2025実績	構成比	2026予想	構成比	増減	増減率
建設事業	建築	国内	13,513	74.9%	10,900	75.2%	△2,613	△19.3%
		海外	992	5.5	600	4.1	△392	△39.5
		計	14,505	80.4	11,500	79.3	△3,005	△20.7
	土木	国内	3,207	17.8	2,500	17.2	△707	△22.1
		海外	331	1.8	500	3.5	168	50.7
		計	3,539	19.6	3,000	20.7	△539	△15.2
	合計	国内	16,721	92.7	13,400	92.4	△3,321	△19.9
		海外	1,323	7.3	1,100	7.6	△223	△16.9
		計	18,045	100	14,500	100	△3,545	△19.6
開発事業等			936		1,000		63	6.8
合計			18,981		15,500		△3,481	△18.3

（参考）海外受注高（連結）

（単位：億円）

	2025実績	2026予想	増減	増減率
単体	1,323	1,100	△223	△16.9%
子会社計	1,104	1,900	795	72.0
合計	2,428	3,000	571	23.5

※2026年5月12日公表の予想を修正しておりません。

(C)Copyright SHIMIZU CORPORATION. All rights reserved.

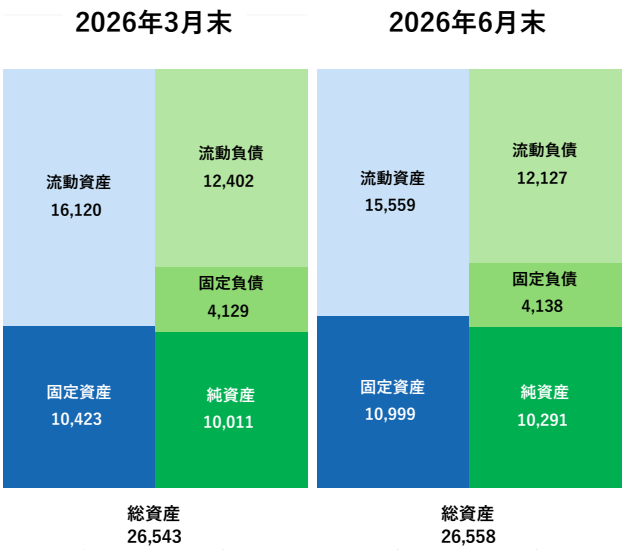
・通期の受注高予想について、建築・土木別、国内・海外別に、前期実績比で記載しています。

5 財政状態及び株主還元

連結BS

清水建設

（単位：億円）



主な内訳

		2026年3月末	2026年6月末	増減
現金預金	（億円）	2,379	3,488	1,108
政策保有株式 （うち評価差額）	（億円）	2,438 (1,849)	2,463 (1,892)	25 (43)
政策保有株式 対連結純資産割合	（%）	24.4	23.9	―
工事損失引当金	（億円）	645	548	△96
有利子負債	（億円）	5,674	5,732	58
D/Eレシオ	（倍）	0.58	0.56	―
自己資本	（億円）	9,779	10,147	367
自己資本比率	（%）	36.8	38.2	+1.4pt

(C)Copyright SHIMIZU CORPORATION. All rights reserved.

・2026年6月末の連結貸借対照表について説明します。

・6月末の連結総資産は2兆6,558億円で、前期末に比べ14億円の増加となりました。

・資産・負債の主な内訳を右側に記載しています。

・連結の工事損失引当金の残高は548億円となり、前期末に比べ96億円減少しました。

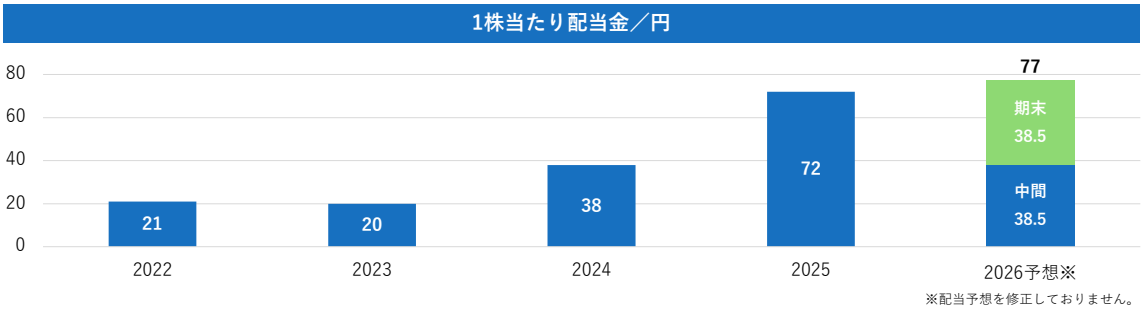
・連結有利子負債の残高は5,732億円となり、前期末に比べ58億円増加しました。

5 財政状態及び株主還元

株主還元

清水建設

- 長期的発展の礎となる財務体質の強化と安定配当を基本方針としております。
- 1株当たり配当金の下限を年20円としたうえで、成長により稼得した利益を連結配当性向40％を目安に還元することとしております。
- 2025年度の負ののれん発生益及び2026年度の負ののれん相当額は、キャッシュインを伴わない連結決算手続き上の利益であるため、当期純利益から除いて配当金を算出しております。



※配当予想を修正しておりません。

	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度予想
1株当たり当期純利益(連結)（円）	66.29	23.57	94.80	186.68	**243.72**
連結配当性向（%）	31.7	84.9	40.1	38.6※1	**31.6**※2
自己株式取得（億円）	―	254	345	100	**100**
総還元性向（%）	31.7	233.0	92.0	46.5	**37.6**

※1 負ののれん発生益59億円を除いた連結配当性向は40.5％となります。
※2 負ののれん相当額355億円を除いた連結配当性向は40.2％となります。

(C)Copyright SHIMIZU CORPORATION. All rights reserved.

・株主還元の状況について説明します。

・2026年度の配当については、連結業績予想を上方修正したものの、負ののれん相当額は、キャッシュインを伴わない連結決算手続き上の利益であり、当期純利益から除いて配当金を算出しているため、配当予想は修正しておりません。

・また、自社株買いについては、期首の段階では、M＆Aなどの成長投資や、工事資金の需要が旺盛であることに加え、中東情勢により不透明な経営環境にあることも踏まえ、実施を見送りましたが、
今回、政策保有株式の売却が順調に進捗していることなど直近の状況を踏まえ、100億円を上限として自社株買いを実施することとしました。
詳細は、本日、別途開示しました「自己株式取得に係る事項の決定に 関するお知らせ」をご覧ください。
これにより、自社株買いを含めた総還元性向は、37.6％となる見込みです。
（負ののれん相当額を除いた総還元性向 47.9％）